住宅･店舗及び一般機器用中性洗浄剤　ポリールQ1



【外　観】微黄色液体

【液　性】中性（pH7）

【主成分】界面活性剤、エステル系溶剤、キレート剤

【入目・荷姿】18ℓ金属缶

【用　　途】
- 塗装面、クロス、金属、プラスチック、鏡、ガラス、石材、陶器、ビニールレザー等の素材に付着した手垢、水垢、湯垢、石鹸カス、タバコのヤニ、油脂、血液、機械油等の洗浄
- 店舗内の陳列棚、カウンター、塗装パネル、コピー機、電子レンジ等に付着した手垢、油脂汚れの洗浄
- チューインガムの除去

【特　　長】
- 強力な浸透力と洗浄力を持ち、汚れを手早く落とします。
- 中性のため、塗装面・プラスチック・非鉄金属等、広範囲での使用が可能です。

【使用方法】

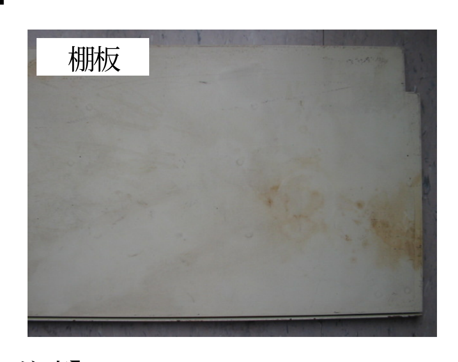
① 汚れの度合いに応じて、原液もしくは水・温水で希釈してご使用ください。

② ポリールQ1をスポンジやウエスにしみ込ませ、洗浄面を軽く擦ってください。
特にひどい汚れは、擦り込んで約5分間置いてから洗えば効果的です。

③ 洗浄後は水で洗い流すか、十分に拭き取りを行ってください。

汚れに対する洗浄剤濃度の目安		
ひどい汚れの場合	原液～5倍	本液1ℓ に対して、水0～4ℓ
一般的な汚れの場合	5倍～10倍	本液1ℓ に対して、水4～9ℓ
軽い汚れの場合	10倍～20倍	本液1ℓ に対して、水9～19ℓ

【洗浄例】



➡



【取扱上の注意】
- 皮膚に触れたり眼に入らないよう注意してください。飲み込むと危険です。
- 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用してください。
- 換気をよくして使用してください。
- 使用する前に目立たない所でお試しください。
- 用途以外には使用しないでください。

〔製造元〕



本　社　大阪府富田林市若松町東1-205
TEL 0721-26-2271　（代表）
FAX 0721-26-2273

〔販　売〕





菱江化学株式会社

本 社　東京都中央区日本橋本町4-12-20 PMO日本橋本町ビル
TEL 03-6861-0054
FAX 03-6861-0034

【金属に対する影響】

〔試験条件〕

洗浄剤濃度　………　「ポリールQ1」原液及び 10 倍希釈液
洗浄剤温度　………　常温
浸 漬 時 間　………　1 時間

金属板の外観変化での判定

品　　種	原　　液	10 倍希釈液
鉄	○	○
銅	○	○
アルミニウム	○	○
真鍮	○	○
ステンレス（SUS304）	○	○

判定基準：目視による外観の変化
○：変化なし

【樹脂・ゴムに対する影響】

洗浄剤濃度　………　「ポリールQ1」原液及び 10 倍希釈液
洗浄剤温度　………　常温
浸 漬 時 間　………　1 時間

樹脂・ゴムの外観変化での判定

	原　　液	10 倍希釈液
硬質ポリ塩化ビニル	○	○
半硬質ポリ塩化ビニル	○	○
ポリメチルメタクリレート	○	○
ポリスチレン系（ABS・PS）	○	○
ポリプロピレン	○	○
ポリエステル（PET）	○	○
クロロプレンゴム	○	○
ウレタンゴム	○	○
ブチルゴム	○	○
シリコンゴム	○	○

判定基準：目視による外観の変化
○：変化なし

取扱説明書

製　品　名　　ポリールＱ１

危　険　性
・不燃性であり、引火性、爆発性、酸化性、自然発火性なし。
・通常の条件では熱、光、衝撃に対し化学的に安定である。

有　害　性
・眼に対して刺激性がある。皮膚に繰り返し接触すると、脱脂作用により皮膚荒れを起こす事がある。

取扱上の注意
・換気の良い場所で取扱う。蒸気又はミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
・取扱い中はゴム手袋、ゴム前掛け、眼鏡、長靴等の保護具を着用し、直接身体又は着衣に付着しないようにする。
・飛散させたり、こぼれないようにする。万一飛散したり、こぼれた場合には、水で洗い流す。
・取扱い後に手、顔等をよく洗い、うがいをする。

火災時の処置
・可能な限り風上から消火活動を行う。
呼吸保護具等適切な保護具を状況に応じ着用する。
消火剤：炭酸ガス、粉末、泡、水噴霧

漏出時の処置
・大量の場合、おが屑、土砂等を混ぜ、スコップ等で空容器に回収する。
少量の場合は、ウエス等で拭き取る。
河川等に排出されないように注意する。
・ゴミ、水分等の混入防止のため、使用後は密栓して下さい。

保管上の注意
・直射日光が当らない冷暗所に保管する。
・盗難又は紛失することのないよう施錠場所に保管する。

応急処置
＜眼に入った場合＞
直ちに多量の水で 15 分以上洗眼し、直ちに眼科医の手当を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々までよく行きわたるように洗浄する。コンタクトレンズを着用の場合は、取り除いて洗眼し続け、医師の手当を受ける。
＜皮膚に付着した場合＞
汚染した衣服、靴等を速やかに脱ぐ。外観に変化が有るか、痛みが続く場合は、医師の手当を受ける。
＜吸入した場合＞
蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに新鮮な空気の場所に移動し、身体を毛布等で覆い保温して安静に保ち、医師の手当を受ける。
＜飲み込んだ場合＞
水でよく口の中を洗浄する。可能であれば吐き出させ、直ちに医師の手当を受ける。

廃棄上の注意
・使用廃液、水洗水の廃棄の際は、条例や法令に従って処理して下さい。
・自社内処理を行う場合には、pH 調整、凝集沈殿処理、活性汚泥処理、活性炭吸着等の処理を行い、市町村の条例に定める基準に従って放流して下さい。